

地方創生先行型事業 有識者評価シート

北海道 白老町

担当部署	健康福祉課子育て支援室(子育て支援グループ)	交付区分	上乗せ交付タイプⅡ
事業名	「子育てタウンしらおい」推進事業		

交付金充当額	5,000,000 円							
事業実績(内容)	<p>白老町子ども・子育て支援事業計画の基本目標である「妊娠・出産期からの切れ目のない支援」を推進するため、町内の子育て世帯が、不安無く子育てを行えるまちの実現を目指し、子育てを進める上での総合支援ツール「白老町子育てガイドブック」を作成し、町内子育て世帯・転入者世帯を対象に約800部を配布した。</p> <p>また、子育てに関する情報の提供、ステージ発表や講演会の開催、遊びのコーナー等を設置して、地域住民が子育てに関する悩みや子育ての楽しみを語り合いながら交流を深めるためのイベント実施に取り組み、町内外から延べ200世帯450名の参加があった。</p>							
KPI	単位	2014(平26)	2015(平27)	2016(平28)	2017(平29)	2018(平30)	2019(平31)	上段：目標値 下段：実績値 上段：目標値 下段：実績値
1	支援ツール配布世帯数		800					
2	交流イベント参加世帯数		100					
3			200					
4								
5								
取組と課題	<p>「しらおい子育てガイドブック」を作成したことで、妊娠～出産～子育てに至る各期間における支援制度等を一元的に情報提供が可能となり、子育てで生じる悩みや不安を解消する一助となった。</p> <p>また、よりよい子育て推進に向けたイベント実施に伴い、町内の子育てサークル・子育て支援団体をはじめとした12団体の出席により、各団体における活動を来場の子育て世代に広くPR出来たほか、講演会等を併催したことで、子育て世代が持つ悩み共有し、解決するきっかけとなるなど、来場者から「次回も開催して欲しい」との好反響を得た。</p>							
翌年度以降の事業の方向性	<p>翌年度以降においても出産世帯・転入生世帯に対するガイドブック配布に取り組みほか、好評であったイベントについても取組内容を精査のうえ、今後の実施に向けて検討を図っていく。</p>							

事業の評価	①評価	A：取組事業が、白老町創生の推進(KPIの達成)に向け、成果が十分であった。 B：取組事業が、白老町創生の推進(KPIの達成)に向け、相当程度の成果があった。 C：取組事業が、白老町創生の推進(KPIの達成)に向け、成果がなかった。	総合評価 → A
	②評価に係る有識者意見等	<ul style="list-style-type: none"> ◆町の人口減少対策に向けた取組として、今後非常に重要なものである ◆「業務報告写真」がH28.3.25～26のみである(→イベント開催期間のため)。また、イベント回数の目標値設定が必要と考える。 ◆支援ツールの配布・交流イベント参加人数等により十分な成果があったものとする。 ◆子育て世代からもガイドブックの評価は高く、交流イベントの参加数も多くあったことから、評価出来る。 ◆支援ツール(子育てガイドブック)の配布については、対象となる世帯への配布はほぼ完了していると考えられることから、今後は別の支援ツールや子育て支援事業を検討してはどうか。 ◆「子育てタウンしらおい」の目標が明確であり、参加・協力する町民が数多くいた。もともとある子育て支援団体の力が大きく、まちの財産である。 ◆対象者全員へのガイドブック配布、イベント参加者が多かったことは大変評価出来る。 ◆「支援ツールについて」 <p>「白老町子育てガイドブック」を作成するにあたり、請け負った業者が、短期間にもかかわらず丁寧に取材をしていた。取材の過程およびガイドブックを拝読すると、それぞれの機関が白老町の子育て支援や教育のどの分野を担い、どこと連携しているのか、以前よりも理解することができた。さらに、「ガイドブック」の作成のみならず、情報誌「かわら版」の作成もなされ、子育て家庭にとって有用であったと考える。</p> <p>「交流イベントについて」</p> <p>国の補助金の都合もあり、実施日が年度末になったのが残念であった。子育て支援・教育に関係する機関が一堂に介して行うイベントは久しぶりであり、気軽に楽しめるイベントの要素も強かったため、参加者は満足そうだった。実行委員会の際、子育て当事者の親からさまざまな企画や運営についてのアイデアが出された。しかしながら事務局の人員不足もあり、それらを整理して次の会議に生かしたり、提案した若い世代の力を活用しきれなかったと感じた。</p>	

事業実績を踏まえた今後の方向性	③今後の方向性	A：事業の成果が十分にあったことから、内容の強化等さらに発展させて取り組むべき。【事業拡大】 B：事業の成果が相当程度あったことから、内容を見直し(改善)取り組むべき。【改善し事業継続】 C：事業の成果が相当程度あったことから、現状どおり今後も取り組むべき。【現状どおり事業継続】 D：事業の成果がなかったことから、事業を中止すべき。【事業中止・廃止】	総合評価 → A
	④今後の方向性に係る有識者意見等	<ul style="list-style-type: none"> ◆更なる支援事業を検討し、子育て世帯への支援が望まれる。 ◆同じ世帯のみでなく、広く参加を呼びかけられる工夫(イベント内容・日程等)が必要と考える。 ◆今後も子育て世代への支援に向け、継続した取組を図って頂きたい。 ◆今後も取組を継続していくべきである。 ◆アイヌ文化の子育てから学び、「ウレシバモシリ(ともに育ちあうモシリ)」を目指し、世界中に発信すべきである。 ◆今後も継続して配布するとともに、イベントも継続することで意識向上とコミュニケーションが図られ子育て環境の充実に繋がる。 ◆「支援ツールについて」 <p>残部がどれくらいあるのかに依るが、転入してきた子育て家庭に優先的に配布してほしい。また来年度以降も今回の事業者で継続して受託し、「かわら版」を年に2～3回作成してもらってはいかがか。「かわら版」であれば、費用を抑えられるのでは？「ガイドブック」も年度ごとに変更があったりと思うので、それらを補完する意味でも、また新しいサービスや活動の紹介のためにも、見やすくわかりやすい紙面の情報は提供する意義は大きいと考える。</p> <p>「交流イベントについて」</p> <p>予算の関係で27年度と同じ規模のイベントはできないにしても、各機関や団体の可能な範囲で、イベントを継続することが必要。その際の事務局員を臨時職員として雇用してはどうか。訪問型家庭支援員のように、実働への時給で雇えば、費用はさほどかからないのでは？</p>	